

取組名称	里山の豊かさを問い続ける			団体設立後の経過年数	7年
応募取組主体名称	株式会社Foreque	活動地域	熊本・南小国	応募取組の活動年数	6年
取組主体の種別	企業 / 学校 / NPO・任意団体 / 自治体 / 地域コミュニティ / 個人 / ユース部門（概ね30代以下の次世代を担う若手を中心となって実施する取組はこちらにもチェックしてください） / その他				
応募取組に関連する実行委員会特別賞	サステナブルデザイン賞 / 子どもエンパワーメント賞 / 環境と福祉賞 / 環境地域ブランディング賞 / 環境ひとづくり賞 / 環境社会イノベーション賞 / 地球と人への想いやり賞 / SDGsビジネス賞 / EXPO2025 いのち動的平衡賞				



取組の要旨

食料・木材・水資源の供給など私たちの暮らしと密接な関わりを持つ里山ですが、近年は各地で耕作放棄地や放置林が増え、深刻な地域課題を生み出しています。私たちが暮らす南小国町は人口3800人、主幹産業は観光と農林業です。250年の歴史を持つ阿蘇・小国杉を活用して、子どもたちの世代へ豊かな里山を残す活動が続いています。地域の伝統や文化を守りつつ、既成概念に縛られない未来に向かった新しい取り組みです。

実績の要旨

地元の製材所数は、この20年で9割以上が倒産してしまいました。製材所数が少ないと、丸太を購入する需要も少なくなり、原木価格も低迷し、丸太が市場へ出荷されないという悪循環が生まれます。里山の魅力や小国杉の価値を社会へ発信することにより需要が安定しました。また、移住者も増え、林業を志す若い人も増えました。

取組評価の要旨	環境への貢献	地域資源の更なる活用方法が見つかり森林保全につながっています。
	社会・経済への貢献	年間4万人の観光客が来店し、町内の宿泊客も増加しました。1泊の宿泊料は、平均して3万円とすると、経済効果は2億円を超えています。
	地域資源の活用	代々守り続けてきた小国杉の価値向上へ貢献しています。また、地域の農産物や神楽の継承にも力を入れています。
	普及・汎用性	荒廃する山は、全国的な問題です。里山の資源をどのように有効活用すべきかということの道標になっています。
	革新・ユニーク性	長い歴史の中で守り続けられた伝統や文化を現代のクリエイティブな視点で再構築し、社会へ発信しています。
	継続性	観光、農林業の関係者と共に新しい関係を構築できています。

展望の要旨

里山の価値を上げることは、この国の価値を上げることに繋がります。里山資源をさらに活用し、空間やプロダクトとして開発を続けていきます。